

R6 年 7 月

安全講習レポート

【研修内容】

1. 交通事故が及ぼす影響について
2. 重度後遺障がい者について
3. 安全意識に関して
4. 交通事故の原因について
5. 危険予測のポイントについて

受講日：7月17日（水）

作成者：統括運行管理者 中川

講習参加者：貸切・乗合乗務員、運行管理者



1. 交通事故が及ぼす影響について

まず初めに、交通事故が及ぼす影響についての理解を促すことは、法令を遵守することの重要性を理解し安全意識を強く持つために重要な事項である。

実際に交通事故の被害に遭われた方々は「事故被害の悲惨さを知ってもらい、安全運転を意識するきっかけになって欲しい」という思いがあり、今回講習して頂いた NASVA の取材に協力しているとの背景もある。

では、実際に交通事故が及ぼす影響とはどのようなものがあるのか。

- ① 尊い人命が奪われる
- ② 障害を負うことで被害者のその後の人生が変わる
- ③ 加害者の人生が変わる
- ④ 家族・友人・恋人の人生が変わる
- ⑤ 大きな事故を起こした事業者は処分される
- ⑥ 会社の従業員やその家族の生活が変わる

上記の内容で人生が変わるとの記載があるが、幸いにも命を取り留めたとしても、重度後遺障害を患うリスクが高く、被害者本人だけでなくその方の周りの方々にまで影響を及ぼし、多くの人の人生を変えてしまうのが交通事故の大きな影響である。

2. 重度後遺障がい者について

テレビなどで報道されている交通事故のニュースで意識不明の重体と報道されている方の多くは、遷延性意識障害の状態になる可能性が非常に高いことを今回の研修で学んだ。

この、遷延性意識障害とは俗に言う脳損傷によってなる“植物状態”のことである。

この状態になると、自力での移動ができなくなるだけでなく、食事を自分で摂ることもままならず、意味のある発語もできない状態となり、意思の疎通ができなくなってしまうのだ。

他にも重度後遺障害の中には脊髄損傷による後遺症もある。

これは、遷延性意識障害とは異なり、意識は健常者同様の状態であるが、自分の意志で手足や体を動かせなくなったり、体の感覚が無くなり骨折や怪我に気付くこともできず、床ずれになりやすく、体温の調整もできなくなってしまう後遺症である。

3. 安全意識に関して

安全意識は普段の運転に現れる。

事故を起こしてから自らの運転を悔やむ人がほとんどだが、起こした後に悔やんでも被害者は元には戻らないし、一変した生活も元には戻らない。

だからこそ、定期的に安全意識を締め直し運転に臨む必要がある。

安全意識が低い状態だと、「危険を低く見積もり、だらう運転になる」「スピードを出しすぎてしまう」「一時停止をしなかったり、停止が不十分になる」「夜更かしをして睡眠不足のまま運転してしまう」などの例が挙げられ、事故リスクが非常に高まるのだ。

4. 交通事故の原因について

多くの事故の直接的な原因となった運転行動の背景には、大きく分けて2つの原因がある。

1つ目は生理的原因。2つ目に心理的原因だ。

まず1つ目の“生理的原因”とは、睡眠不足や疲労状態、風邪薬等の服用、飲酒運転が挙げられる。

2つ目の“心理的原因”とは、安全意識の低下、運転技術の過信、焦り、興奮状態、ストレスなどである。

警察の令和4年度の事故統計をみると、1番多いのが安全不確認、続いて脇見運転、そして3番目が動静不注意となっている。

この統計からでも心理状態が及ぼす運転への影響は非常に大きいことが分かる。

だからこそ、事故を未然に防ぐためにも自分自身で心理状態を上手くコントロールできるようにならないといけない。

実際にプロドライバーが実践している心理コントロールの一例として

- ・五感を刺激する
 - ・家族のことを思い出して気持ちを締めなおす
- などがある。

心理面を意識し上手くコントロールすること、そして自分の運転の弱点（クセ）を把握し対策をしながら日々の運行に努めることで、事故リスクが減る。

しかし、いくら心理面を気に欠けていて、運転技術が備わっていたとしても、健康状態が悪いと安全運転は実現できないので、睡眠時間を十

分に確保し安全に運転できる状態にしておくことはドライバーの責務である。（睡眠不足の状態での運転は飲酒運転と同等の危険があり、追突事故や自損事故の頻度が高くなる。）

5. 危険予測のポイントについて

交通環境には免許を持っていない子供や機能低下が著しい高齢者、音楽を聴きながら運転している自転車など様々な人がいる。

自分が交通ルールを守っていても事故に遭う可能性はあり、相手の違反によるものでも一定の責任を負わされる場合がある。

そのため、「本当に大丈夫かな？」と疑う気持ちを持って慎重に危険予測をしながら防衛運転することがとても重要である。

加えて、危険の見積もり方によって運転の仕方が変わり、安全性も変わってくるので、より高めに危険を見積ることが大切なのだが、これには危険予測能力が必要となる。

危険予測能力とは、主に2つの能力から構成される。

- ①「危険なもの」を見つける力
- ②「悪い結果」を予想する力

上記 2 つの能力を高めるためにも、「子供の行動特性」や「高齢者の行動特性」「自転車の行動特性」をしっかりと理解し常に最悪の結果を予想できる状態にしておく事が大切だ。

総括

今回の講習で実際に交通事故に遭われた方々へのインタビューによるリアルな声やリアルな実情を目の当たりにし、このような事があってはならないと強く感じました。

また、今まで無事故だから大丈夫との慢心は非常に危険であり、実際に過信によるだろう運転が原因と考えられる死亡事故や重大事故を起こした方の中には 20 年～30 年間無事故で運転している方がいきなりこのような事故を起こしているケースも多いと学び、常に危険予測をしながら運転することの重要性を深く理解しました。